

日時:2019年1月5日(土) 13:00~17:30

場所:岩手大学テクノホール

主催:TOLIC

後援:岩手大学、盛岡市、岩手県工業技術センター、東北経済産業局、北東北ナノメ
ディカルクラスター研究会、いわて産業振興センター、盛岡工業クラブ、INSいわて
コーディネート研究会、東北CAE懇話会

◆テーマ

「東北から世界に！TOLIC発の海外ビジネス展開」

◆1. 企業の海外展開報告 13:05~15:05

○株式会社フロムいわて(とびだせIWATE) 代表取締役 野田 尚紀氏

本業で培った「オンリーワン」の技術を持つ岩手県内のベンチャー企業が、いま医療用機器の開発製造やライフサイエンス研究分野といった異業種に続々と参入し始めている。少子高齢化に拍車がかかるなか、健康・医療・介護の分野で期待が寄せられている「デジタルヘルスケア」の市場展開は国内にとどまらず、全世界に広がる可能性を秘めている。こうした「ものづくり」で世界市場に活路を見出す県内企業とその「オンリーワン」技術を特別番組で紹介する。

○セルスペクト株式会社 代表取締役 岩渕 拓也氏

2050年、我が国の人口が9000万人を割る。このことは、一人あたりのスペースが1.4倍増となる代わりに、所得者一人当たり、10人の社会的ケアの負担を担うことを示す。人口安定化のためには、“出生率の低下が止まらない都市部に集約されたライフスタイル”からの脱却が重要である。同時に地方社会は、人口定着基盤である“快適な地域社会”、“活発な地域産業”の両輪の再興が求められる。即ち、地方創生たる、経済課題と社会課題の同時解決という命題は、フィジカル空間とサイバー空間のリンクによりこれらの同時解決を企図しているSociety 5.0(内閣府)に通じる。本講では、Society 5.0の実現が地方創生のキーファクターとなり、且つこのこと自体が地産地消エコサイクルとなり得る可能性について、新春討論する。

○株式会社ピーアンドエーテクノロジーズ 代表取締役 大関 一陽氏

株式会社ピーアンドエーテクノロジーズは、車載機器通信の国際規格であるCANやLIN等に対応した通信シミュレータ・モニタを自社製品として開発・販売しており、海外では自国向けの国産車を製造している中国、韓国、マレーシアに代理人を置き、調査及び営業活動を行っている。最近では医療分野でも海外での調査を開始しており、その中でも脳卒中リハビリロボット等の市場調査の状況を、自動車分野での活動と合わせ報告する。

○株式会社わしの尾 代表取締役 工藤 朋氏

株式会社わしの尾は1829年より八幡平市で日本酒を醸造する酒蔵である。TOLICにおいては日本酒造りの要である「麴」を製造する技術について研究し、より質の高い日本酒製造に生かしていくことを目標としている。今回は海外展開がテーマなので、2016年~2018年の3年間岩手県の事業として参加したフランス北東部のアルザス地方コルマル市で開催されたコルマル旅行博に関連し、現地での日本酒を取り巻く状況について報告する。

○株式会社東光舎 代表取締役社長 井上 研司氏

株式会社東光舎の海外展開は、1963年にヴィダル・サスーンが発表したジオメトリックカット用の鋏を日本で初めて販売し、それらが海外へ行った日本の美容師たちにより世界美容師達の目に留ったことに始まります。現在は世界約50ヶ国に販路を持ち、世界中の展示会へ出店することでシェアの拡大を図っています。海外展開にはメリットとデメリットがありますが、経営理念に照らしどの方向に進むべきかを見極めて判断することが大切です。

○有限会社イグノス 代表取締役 大和田 功氏

イグノスは画像処理システム・ソフトウェア開発専門会社です。弊社の海外展開ビジネス事例としてフィリピン農業省に納入した土壌成分分析装置「スキャナライザー(フィリピン版)」、日本法人ベトナム工場に納品・設置した「ねじ外観検査装置」の開発経緯、製品紹介を行います。また最新技術紹介として平成28年度戦略的基盤技術高度化支援事業採択「低侵襲に子宮内膜症の悪性化を評価できる光学経腔プローブの開発」PLセルスペクト(株)における弊社が担当した開発成果技術紹介を行います。

○株式会社アイカムス・ラボ 代表取締役 片野 圭二氏

当社は、2003年岩手大学発ベンチャーとしてスタート致しました。岩手大学の金型技術を活用した超小型プラスチック歯車によるマイクロアクチュエータを搭載した世界初のペン型電動ピペット「pipetty」を開発しました。まず、2014年に日本国内に発売を開始し、2016年11月からは世界に販売を展開しております。また、網膜再生医療用iPS細胞移植デバイスや培養液自動交換システム等の各種ライフサイエンス製品と海外ビジネスを紹介致します。

○株式会社TOLIMS 事業開発部 統括マネージャー 片野 友貴氏

「岩手で海外ビジネスをする」、イメージができない方も多いのではないのでしょうか。当社は2015年盛岡に「岩手・東北から世界を目指す！」という企業理念で立ち上げた、海外マーケティング・販売を行うベンチャー企業です。現在、アメリカ・韓国・台湾を始めとする海外の販売代理店と直接契約を結び、TOLIC企業の製品を世界に向けて展開しています。昨年11月にドイツで出展した世界最大医療機器展「MEDICA」報告やTOLIMSの海外展開状況を中心に発表します。

◆各機関のTOLIC取り組み状況報告 15:15~15:45

○三陸地域資源の再生医療への展開 一関工業高等専門学校 副校長 戸谷 一英氏

一関高専は震災復興の一環として三陸地域資源の有効活用を継続しています。例えば、スルメイカの中骨から多糖の一種であるβ-キチンを抽出しナノファイバー化することに成功しています。このβ-キチンナノファイバーを細胞培養基材として自動細胞培養装置と組み合わせることによって、新たな細胞回収方法や再生医療分野への展開を検討する予定です。既にカニ殻に含まれるα-キチンやキトサンは皮膚再生や細胞培養に展開されています。我々は、三陸地域資源の再生医療への展開を行ってまいります。

○地方創生推進交付金を活用した支援計画について

盛岡市商工観光部ものづくり推進課立地創業支援室 柳原 哲史氏

◆高校生の海外活動の取り組み 15:45~16:15

○盛岡第一高校

○盛岡中央高校「1年間の海外留学を通して」

盛岡中央高等学校は、個性を尊重し人間教育を基本とする『独立進取、研鑽努力』を建学の精神とし学習・部活動・学校行事・国際理解教育などにおいて生徒が活躍できるステージをたくさん用意しています。今回のカンファレンスでは「Resolution:決意」を持って、1年間の海外留学を終え帰国した、進学留学Rコースの代表生徒より、留学生活での経験を通して学んだことや今後への想いを交えて発表します。

◆特別講演 16:15~17:15

○岩手大学と海外の大学との連携 岩手大学 学長 岩渕 明氏

岩手大学では2018年5月現在で23カ国214名の留学生を受け入れているほか、多くの海外派遣プログラムを用意し、積極的に在学生を海外へ派遣しています。その中でも、大学院総合科学研究科の地域創生専攻の学生に、海外で2週間の研修を行う「グローバルコミュニケーション」を必修科目として課していることは、特徴的な取り組みです。「グローバルな大学」を目指し、地域社会のみならず世界に発信し貢献できる人材育成を目指した本学の取り組みについて紹介します。

○かみなりとキノコのふしぎな関係～高電圧プラズマの農水食分野での利用とその国際協働～

岩手大学理工学部 教授 高木 浩一氏

高電圧・プラズマの農水食(農業、水産業、食品)分野への応用について述べる。利用する効果は、静電気力(クーロン力)、プラズマ化学反応、電界分布の周波数制御になる。これらの効果を利用して、農業分野では収穫前段階の発芽制御、生育環境制御、結実促進(キノコ増収など)、収穫後段階の鮮度保持や混載輸送などへ活用する。水産業では、チルドおよび凍結保存時の品質劣化防止について、食品分野では有用成分抽出への利用について述べる。また、これらの電源をどのように構成すべきか、国際協働での持続可能社会への貢献、次世代の科学人材育成への取り組みについても述べる。

◆懇親会 18:00~20:00 ホテルルイズ14階 会費5,000円